

# 久多花笠踊

## 志古淵神社

国指定重要無形民俗文化財

しごふちじんじや くたはながさおどり



## 夜道を照らす 花の明かり



**京** 都市最北端に位置する左京区久多。ここで行われる久多花笠踊は、室町時代に流行した風流踊の伝統を残すと伝えられている奉納踊です。5月5日の午祭りで志古淵神社に五穀豊穰を祈願し、その成就に感謝して8月24日の夜に行われるのがこの祭りです。

花笠を持った集落の男性たちが上の宮神社に集まり、花笠を奉納します。その後、大川神社に立ち寄って花笠を奉納し、最後に志古淵神社へ。神社では花笠を供えた後、花笠踊を奉納します。

使用されている花笠は地元の男性たちの手作りで、花や切り絵が町ごとに異なっています。さらにこの神事では、夜の田園風景の中に花笠の明かりだけが浮かび上がる美しく幻想的な様子を目にすることができます。この様子は現実と少し離れたような不思議な光景でとても魅力的です。

## 受け継がれる歌

使用する楽器は締太鼓のみです。中世に流行した室町小歌をしのぼせる歌に合わせて踊られます。曲目は、現在では「道行」、「綾の踊り」、「唐船」などの十数曲が伝承されており、地元に残る花笠踊本には130番もの歌詞が書き残されています。

花笠踊本に記載されている  
「道行」の歌詞の一部▶

- 一、一人娘を薩摩へもらう  
薩摩は声になまるとの インヤなまるとの
- 一、声はなまるとのよしあらせませ  
薩摩は名所との心 インヤとの心
- 一、ここを明けさい明けげば帰ろう  
さいた刀に露がうつ インヤ露がうつ
- 一、露がうつとも明け候まえよ  
今宵母ごの傍にねる インヤ傍に寝る
- 一、みなご御座れくりと御座れ  
十五夜の月は輪の如く インヤ輪の如く

## 頭には被らない 花笠

男性たちが手に持っているこの花笠。  
“笠”というからには頭に被るものではないの？ そう疑問に思っている方もいるのではないのでしょうか。

実はこの花笠、以前は子どもたちが実際に頭に被って踊っていたそうです。しかし、装飾が豪華で高さがあり、花は紙でできてはいるもののそれなりの重さがあります。大人が被っても歩き回るのが大変なこの花笠。これを子どもたちに被らせるのはあまりにも可哀想…。そうして戦時中から大人の男性が手に持つて踊るかたちが変わっていったそうです。

現在作られている花笠は、笠と呼ばれる六角形の台から高さを測ると約60~70cm。中の明かりは今でも蠟燭を使用しています。



祭事 info

8/24 夜 20:00~

京都市左京区久多中の町 362

左京区役所(国道367号経由)車で約1時間



# 広河原松上げ

京都市登録無形民俗文化財

**広** 河原の松上げの特徴として、行事の1週間ほど前に佐々里峠に祀られている地蔵を村内の観音堂に移し、松上げ当日に観音講を行い、松上げが終了すると峠の堂に戻すことが挙げられます。

1200 本もの地松に火が灯され、地松に火を灯し終わると中心にある高さ約 20m の燈籠木の先端にあるモジという笠状の籠に向かって男衆が 4 方向から放り上げ松を投げていきます。いくつもの火の矢が飛び交い、モジに火が灯るとその場は熱気に包まれ一気に盛り上がります。

燈籠木が倒されると「つつこみ」という勇壮な祭りがあり、男衆が倒れたモジの炎に向かって長い棒を二方向から突っ込み、炎をかき上げます。火の粉が空高くに舞い上がり、見るものを圧倒させるほどの迫力があるので最後まで楽しめる祭りです。

## 盆の夜を 火の矢が踊る

# 松上げの発祥

松上げは火の神である愛宕信仰からきており、さらに愛宕山と深い関わりのある地藏信仰とも結びついた、いわゆる神仏習合的な民俗行事として今に伝えられています。

そもそも広河原松上げが行なわれる8月24日は、地藏盆が行なわれる日でもあります。佐々里峠の地藏様をお迎えし、また戻すという形は、素朴な地藏祭として松上げの原初の形態をとどめた格好の例と言われています。

いろいろな情報の中には、松上げがあたかも盆の送り火の形態のようにいわれるものがありますが、広河原松上げは愛宕信仰に基づく火伏せの行事として、火の恵みや驚異をより深く認識し、年に一度愛宕の神に火を献ずる行事として現在も伝えられています。

interview



新谷 久利さん

広河原自治振興会会長  
広河原松上げ保存会会長

Q. 広河原の松上げの魅力は  
どんなところにありますか？

とても嬉しいことに、広河原の松上げが最も勇壮で印象的だと言ってくださる方もいらっしゃいます。地松が1200~1300本あるという数の多さと、20mもの燈籠木の高さ、そして「つっこみ」という勇壮な姿が見に来られた人たちに感銘を与えているのではないかと思います。

2010年にはテレビ番組で全国放送もしていただきましたよ。

また、近くの観音堂で行われるヤッサ踊り・ヤッサコサイ踊りも是非見ていただければと思います。

Q. 今後、次の世代へと継承していく上で大変なことはありますか？

松上げが行われる日が24日と決まっていますが土・日とは限らないことです。松上げには40~50人の人手がいります。仕事を休んで出てきてもらう人もいますから、年によって人手が足りないこともあります。また、24日の1日だけの行事というわけではありません。添え木取り、地

松作り、藤取りなど春から準備していかなければならないので、その時にも人手が必要です。

さらに、伝統を守っていくためには技術の伝承も大事なことです。使われる藤の種類の見分け方や藤の練り方、くくり方など若い人たちに伝えていかなければなりません。藤取り一つに

しても使われている藤が地内になくなってきたので遠くまで取りに行っています。

そのようなわけで3年前から若い人を対象に研修会を開いています。300年続く伝統行事を絶やさないため、保存会一同がんばっています。



「大文字や、鞍馬の火祭に失われたものが、ここには残っていた」と白洲正子『隠れ里』に記された風景



発事 info

8/24 夜 20:30~21:30

中止

京都市左京区広河原下之町松場  
京都バス(32系統)「下の町」徒歩3分

ひろがわらしものちょう かんのだう ひろがわらやっさおどり・やっさこさいおどり

## 広河原下之町観音堂

# 広河原ヤッサ踊り・ヤッサコサイ踊り

京都市登録無形民俗文化財

### 火の祭典から 観音堂へ

**松** 上げの燈籠木<sup>とろぎ</sup>が倒れる頃、松場近くの観音堂では、ヤッサ踊りが始まります。浴衣姿に三幅前垂れ<sup>みほほ</sup>、下駄を履いた女衆によるヤッサ踊りは、江戸時代に良家の娘が仏に仕える和尚に恋心を抱くが口説き落とすことができず、この踊りで乙女心を癒したという言い伝えがあります。

広河原の松上げが終わると、伊勢音頭を意気揚々と歌いながら男衆全員が観音堂に移動し女衆と合流。ここからヤッサコサイ踊りに変わります。この踊りは楽器を使わず、下駄と手拍子でリズムを取る独特な踊りです。踊りには子どもも混ざり、皆疲れも見せず誇らしげで、笑顔が絶えません。

昔は幾夜となく夜明け近くまで踊っていたそうですが、時代も移り変わり、現在では松上げの夜だけの祭りとなっています。それでも、まるでタイムスリップしたかのような懐かしさと人の温かさを感じる祭りで、男衆と炎の熱気と迫力が印象的な松上げとはまた違った魅力があります。

### ヤッサ音頭

♪ソレサー ヨイトコセー

♪オドルモハネルモ今夜バカリ  
ドッコイサッサイ

♪寺へ参りてお尚さんみそめ  
ドッコイサッサイ  
みそめあいそめ 早やほれそめて  
ソレサーヨイトコセ



祭事 info

8/24 夜 21:30 ~

京都市左京区広河原下之町 観音堂

京都バス(32系統)「下の町」徒歩2分

しこぶちじんじや くたやまのかみ・おゆみ

## 志古淵神社

# 久多山の神・お弓

京都市登録無形民俗文化財

### 一本に一年の 願いを

**志** 古淵神社境内にある山の神の祭りです。1月3日の朝、2つの川の合流点にある久多宮の町には川のせせらぎや鳥のさえずりが聞こえ、とても美しくのどかで心が洗われます。かつてこの地域のほとんどの人々は林業を営んでいました。新年の山仕事の安全祈願のため、各集落に点在する社の御幣をあらためた後、魔除けの弓での的を射抜きます。今では林業をしている人は少なくなっていますが、祭りは現在も受け継がれています。

「<sup>とうどの</sup>神殿」と呼ばれるその年の神官役2人が御幣の取替えのために集落各地を巡った後、神社に戻り「<sup>わらぞうり</sup>エビ」と呼ばれる藁草履を履きます。境内に出て弓矢を引いて的に向け「1、2、3」というかけ声と共に矢を放ちます。1本目はわざと外し、その後、もう1本ずつ矢を射ます。見事に命中すると見守る集落の人々から歓声があがり、大役を果たした神殿にも笑顔がこぼれます。

この祭りは代々志古淵神社の氏子たちで形成される「宮座」によって伝承されています。集落のほとんどの人が関わる<sup>わきあいあい</sup>和気藹々としたお祭りです。

### 山の神とイカダの神

かつて久多の集落では林業で生計を立てる人が多く、山で伐採した木材は志古淵神社付近を流れる川を使って琵琶湖まで運び出していました。そのため林業と運搬の安全を願い「山の神」と「イカダの神」を志古淵神社とその摂社末社で祀っています。神事ではまず山の神に参拝し、そのあとイカダの神に参拝してから他の社を巡っていきます。



「エビ」▶

祭事 info

1/3

朝 10:00~



京都市左京区久多中の町 362

左京区役所(国道367号経由)車で約1時間

# 編集後記

1 お祭り参加へのところがまえ

2 漢字一文字で表す左京区の祭り

1 似ているようでどこかが違うお祭りがいくつかあるので違いを探してみてください

2 集

1 夜のお祭りには懐中電灯などを持っていくと安心です

2 縁

文章担当  
歴史遺産学科 / 百瀬さくら

2 爛

デザイン  
イラスト  
文章担当  
情報デザイン学科 / 横山大夢

1 北部のお祭りはお弁当持参で!

2 幅

1 山間部のお祭りは冬場でも防寒をしっかりと!

表紙  
デザイン  
イラスト  
文章担当  
情報デザイン学科 / 木村菜穂子

デザイン  
イラスト  
文章担当  
情報デザイン学科 / 八木明日美

2 匠

1 写真が好きな人なら他では撮れない場面がたくさん!

1 なかには場所取り必須なお祭りも。人が多そうなお祭りには時間に余裕を持って

文章担当  
歴史遺産学科 / 山口実優

1 人におすすめできるような部分を自分なりに探してみましょ! 絶対あります!

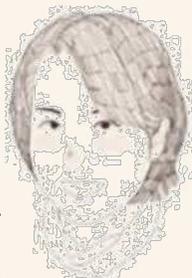
2 現

2 築

デザイン  
イラスト  
文章担当  
情報デザイン学科 / 山中里佳

表紙  
デザイン  
イラスト  
文章担当  
情報デザイン学科 / 森井美衣

1 近寄りすぎると  
燃えますからね。  
でも防寒も大事。  
しっかり安全に

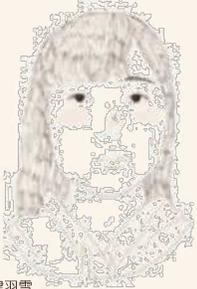


デザイン  
文章担当  
美術工芸学科 / 大津はる香

1 左京区民で  
あってもなくても  
お祭りへの思いは同じ  
だと感じられます!

2 赫

2 視



文章担当  
歴史遺産学科 / 時津羽雪

1 広河原の女衆だけの  
ヤッサ踊りも見逃さないように



文章担当  
美術工芸学科 / 高澤寛子

2 町

1 火祭りでは火の粉が  
飛んでくること  
があるので服装にも  
気をつけて下さい

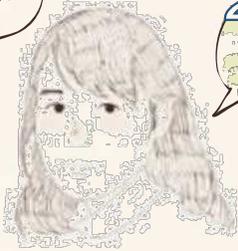


イラスト  
文章担当  
歴史遺産学科 / 野崎友加里

2 広

2 混



文章担当  
映画学科 / 川島歩佳

1 知っているようで  
知らなかった  
左京のあれこれ  
を見つげられるかも

2 繫

1 祭りの時間と天気は確認するべし



文章担当  
歴史遺産学科 / 松原佑里

1 左京の地域を  
見て知る  
最大のチャンス!

1 カメラのバッテリーに  
気を付けましょう。  
シャッターチャンス  
多いです

2 舞

2 種



デザイン  
イラスト  
文章担当  
空間演出デザイン学科 / 中川ちほり



デザイン  
文章担当  
美術工芸学科 / 石田恵里香



発行  
平成28年3月

制作  
京都市左京区役所地域力推進室  
TEL075-702-1021 / FAX075-702-1301

監修  
京都造形芸術大学 教授 関本徹生

協力  
京都造形芸術大学 キョウノマツリゴトプロジェクト2015

京都市印刷物 第273276号